

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目	生物
----	----

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

大問数は例年通り5題であった。「生物基礎」の範囲を含む大問が1つ出題されるという九大生物定番のフォーマットである。残りの4題は「生物」の範囲から広く出題されている。論述問題の字数は合計で380字と昨年度のより170字増加したことに加え、リード文や設問文が長くなり、読み取る必要のあるデータなども増え、時間的な負担の大きな試験に戻った印象である。

<特記事項・トピックス>

論述問題の数は増加したが、近年の傾向として100字を超えるような大きな論述問題が出題されなくなっている。思考力や読解力を要する問題が多いが、与えられた選択肢を手掛かりに解答できる設問が多い。選択式の設問については、用語や文章を選ぶだけでなく、グラフを選ぶ設問や遺伝子型を選ぶ設問などが出題されている。

<合格への学習対策>

飛び抜けて出題頻度の高い分野がある訳ではなく、広い範囲から出題されるので、苦手分野を残さないようにしたい。また、基本的な用語を解答する問題は絶対に完答できるようにしたい。また、情報量が多くて忙しい試験なので、考察に必要な情報を素早く漏れなく見つけて、設問の要求や選択肢なども参考にしながら正しい方向に向かって考察を進めていく訓練が重要となる。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述 選択 論述	生物	植物の光応答	問2 照射する光の強さに応じた葉緑体の移動が起こらず、2つのグラフに差がない(a)が解答となる。 問4 フィトクロムは、赤色光条件下でC末側が認識されることによって核内に移行し、胚軸の伸長を抑制する。	やや難
2	記述 計算 選択 論述	生物基礎 生物	盲斑の検出実験 血糖濃度調節 血液の酸素運搬	問3(3) 血糖濃度を高めることで、筋肉のグルコース取り込みが促進される。 問4(3) 「サ」は、 $60 \times \frac{8}{100} \times 5.0 \times 10^{12} \times \frac{1}{120}$ で求められる。	標準
3	記述 選択 論述	生物	連鎖と組換え 母性効果遺伝子	問1(2) 設問文の記述を文章の通りに正確に読むと、組換え価が5%という意味になる。しかし、該当する選択肢がなく、解答が存在しない。恐らく、組換え価が10%という意図で作成された設問であり、その場合、正解が①であったと考えられる。 問3 ホメオボックスが指定するアミノ酸配列がホメオドメインである。	やや難
4	記述 計算 選択 論述	生物	PCR法 遺伝子導入 医薬品の効果の評価	問5 設問文の「なお」以降の内容より、終止コドンの手前までの配列を増幅する。設問文の終始コドンは、正しくは終止コドン。	やや難
5	記述 選択 論述	生物	進化のしくみ 生存曲線	問2(2) 図1の生存曲線の縦軸が対数目盛ではないことに注意が必要。なお、ヒトとミツバチはともに晩死型の生存曲線となる。 問3 寄生されたミバエは死亡するので、草原環境では寄生されないミバエの割合が生存率となる。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。